



前期後半が始まりました！



40日余りの夏休みが終わりました。今年の夏は、本当に暑い夏でした。「暑い」という一言だけでは片付けられないような暑さで、岐阜の方では40度を超える気温を記録して、まさに命にかかわるような危険な暑さでした。駅伝の練習や部活動等での練習も様々な対策を講じながら行ってきました。平成最後の夏は、この「異常な暑さ」ということがキーワードとなって、皆さんの記憶に残っていくことだろうと思います。

さて、3年生の皆さんは、今年の夏休みは、受験勉強はもちろんのこと、高等学校のオープンスクールへの参加など、進路実現のための準備に時間を費やしたのではないのでしょうか。これから、進路決定をする大事な時期に入っていきます。進路実現という大きな目標に向かって、自分を奮い立たせ、悔いのない進路を選んでください。

2年生の皆さんは、部活動はもちろんのこと生徒会活動などでの主役・リーダーが、3年生から2年生の皆さんに引き継がれていきます。今後、三川内中学校をリードしていくのは、あなた方です。3年生からのバトンを引き継いでいく準備をしてください。

1年生の皆さんは、中学校生活にも慣れて、これからが「本物の中学生」になれるかどうかの分かれ道になっていきます。「こんなものか」「これくらいでいいか」と気を緩めてしまうか、それとも「ペースがつかめてきたぞ」と、いっそう力を発揮していくか、これからのみなさんの過ごし方しだいです。精神的にも成長し、中学生らしくスケールアップしてください。

今日の講話で話をした「三匹の蛙」の話を思い出しながら、前期後半も努力を重ねていってほしいと思います。皆さん一人一人が、どのように成長していってくれるかを楽しみにしています。

窯焼成が終わりました

保護者や地域の皆様のおかげで、8月9日（木）～11日（土）の3日間【6日（月）～8日（水）あぶり作業】、本年度も無事、窯焼成を終えることができました。たくさんの差し入れ等、様々なご支援・ご協力ありがとうございました。当日は、テレビ佐世保や長崎新聞社からも取材があり、インタビューを受けている生徒もいました。

本日、窯出しを行いました。焼きあがった作品の一部については、三川内陶器市（10月6日（土））に出品します。毎年楽しみにされている県外の方もいらっしゃる、そのような方々にどのような評価をいただけるか楽しみです。



「窯焼成」に生徒挑戦
昼夜交代で薪燃やす
佐世保市三川内中
佐世保市新行江町の市立
三川内中（全諸熊修一校長83
人）で6日、全校生徒が焼き
物作りに挑戦する伝統行事
「窯焼成」が始まった。11日
まで続き、それぞれの思い
を込めた作品を完成させる。
1989年に始まり、窯の原
型「蛇窯」を校庭脇に整備、
地場産業の焼き物を学び、
郷土愛を育もうと、毎年取
り組んでいる。
生徒は約2カ月かけて、
ろくろや手びねりで茶碗
や花瓶など約200点を制
作。7月中旬に窯入れした。
この日は窯を乾燥させる
「あぶり作業」に取り組ん
だ。3年の長瀬颯（15）と
1年の横石優士君（12）、
池尾壮史君（12）の班が担
当。煙が目に入らないうち
に、煙が目に染みながら、
枝を窯に入れる作業に汗を
流した。
7、8の両日も作業を継



続。9、11日は「焼成」が
あり、17班に分かれ昼夜を
通して薪をくべて徐々に温
度を上げ、最後は1200
度以上を維持して焼き上げ
る。自然に冷まし、9月3
日に窯出しをする。
長瀬君は「三川内の伝統
の焼き物が体験できるいい
行事。みんなで協力して作
り、やりがいがある。後輩
も受け継いでほしい」と話
した。（山下哲嗣）

「長崎新聞」

H30.8.9

【ICT 支援員の配置】

ICT 支援員として、宮崎和代さんが8月21日（金）から本校に勤務されています。先生方のICTに関わる授業準備の支援やICT機器の不具合の対応や環境整備等に関わっていただきます。2年間の契約で、月曜日と木曜日の週2日間の勤務です。どうぞよろしくお願いいたします。